ひと あい えどがわ

No.21
発行日 / 2012.11.1
創刊日 / 2007.4.10

EDOGAWA SINCE 2004 SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/

江戸川総合人生大学発 ―――― 人と地域をつなぐ情報紙

発行日／2012年（平成24年）11月1日　発行／江戸川総合人生大学

〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ

[8期生クラス座談会] 1年次の授業を振り返って！

1年間の授業で感じたことから、2年次に期待すること、みんなの意気込みとは？

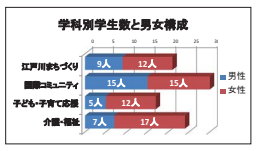
一之江名主屋敷（写真:まち8期 鳥羽山）

ご入学おめでとうございます　ちょっぴりドキドキ9期生

江戸川総合人生大学では第9期生を募集し、102名の方にご応募いただき92名の方が入学されました。
10月3日には篠崎文化プラザで入学式が行われ、新たな一歩を踏み出しました。おめでとうございます！
新入生の内訳は、男性36名・女性56名で、平均年齢は63.8歳です。2年間の学びの中で新たな出会いと絆を深めながら、ともに成長し、地域貢献をめざしましょう。

入学式にて　北野学長による式辞

国際コミュニティ学科前田直喜さんによる「新入生の抱負」



人生大学　地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。
（＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。）

第7回 江戸川総合人生大学祭 ワクワクREPORT 1

第7回 江戸川総合人生大学祭
絆で結ぶ出合いと交流の祭典

紙芝居　葛西城物語を熱演する齋藤さん（まち7期）

学長・学科長によるトークショー

来場者の皆さんも健康体操に一緒に参加（介護7期）

第7回江戸川総合人生大学祭は、2012年7月29日(日)10時から16時まで、タワーホール船堀に於いて「学び、ふれあい、豊かな心～未来のために今できること～」をテーマに765名の一般来場者の参加を得て盛大に開催された。

前日：会場設営・リハーサル
一丸となって準備に汗を流す

大学祭は会場設営から運営まで、学生自らが実施することとしていることから、前日の28日には各学科の学生約160名が結集し、パネル、椅子、机の運搬・設営、看板の準備等に汗を流した。昨年経験していることから、7期生が8期生をリードするなど1、2年生が連携し、正午までにはすべての作業を終了。午後からは本番さながらにリハーサルを行った。

前日の準備に全員力を合わせて

合唱13ヶ国の数え唄（国際8期）

江戸川インドダンサーズの華麗なる踊り

ひまわりリングの自転車の安全な乗り方

講談「新川今昔物語」を加藤さんが熱演（まち7期）

大学祭当日：メインステージ
朗読から講談まで多彩な演目

●開会挨拶

開会挨拶では安東実行委員長から「今年の大学祭では、4学科ごとの特性を生かした展示発表や来場者も一緒になって参加ができる体験コーナー、ステージでの歌や講談さらには学長講演といった、多彩な企画を用意しているので一日楽しんでいただき、私たちの地域貢献への思いをご理解いただきたい。」との力強い挨拶があった。

●朗読　宮部みゆき作「お墓の下まで」

人生大学朗読会のメンバー4名により、宮部みゆき作の「お墓の下まで」の朗読が行われた。この作品は、宮部みゆきの時代物短編小説で、人は誰でも人に言えない過去を背負いながら生きているさまをテーマにした話で、朗読は滑舌もよく間の取り方もすばらしい印象に残るステージでした。

●健康体操「きよしのズンドコ節」他

介護7期による「健康体操」では「きよしのズンドコ節」や「ひょっこりひょうたん島」などの歌と踊りが披露され、最後「東京音頭」では来場者も踊りの輪に加わり、手さばきも鮮やかに会場を数周。学生と会場が一体となったたいへん盛り上がったステージでした。

●講談「新川今昔物語」

初めに「新川げんき会（まち7期、国際7期の有志）」のメンバーから、スライドショーによる「新川げんき会の活動」や「新川の歴史」についての紹介があった。

次いで、まち7期の「つばきはし奴」こと加藤加代子さんから、講談「新川今昔物語」が演じられた。加藤さんは昨年の大学祭でも講談を熱演したことから、はし奴ファンも多数来場し会場は満席状態となった。途中の停電のハプニングにも動ずることなく、逆に来場者の安全に気を配る余裕も。最後の新川にちなんだ謎かけ問答では、正解者に景品を配るサービスもあり、終始加藤ワールドに観客を引き込む芸達者ぶりは今年も健在であった。

（取材：まち7期齋藤）

DOしてますか？ 卒業生 インタビュー vol.2

大島修三さん（国際6期）
外国人との友好の場を作り上げること

◆きらりと光る地域貢献を目指して

真面目で明るい大島さん、これが私の第一印象でした。

商社勤務の時、奥様と共に、アメリカでの2回で合計12年にわたる海外駐在を経験されました。奥様がニューヨークで言葉、生活習慣等で困った時、ボランティアの方に助けて頂いたそうです。この体験が現在のボランティア活動の原点となり、自分も60歳を過ぎたら何か社会貢献をしたいと決心されました。

退職後、外国人との交流の場を作れないかと考えていた時、江戸川総合人生大学の案内を見て、国際コミュニティ学科に入学されました。

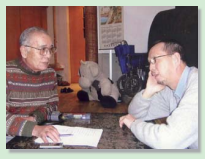
卒業生の様々なグループに参加、また、フィールドワークの中で多くの方々と出会い、ボランティアや友好の場作りの勉強になったといいます。

◆友好の場作りを目標に

1年目の大学祭での経験を活かして、平成21年、西葛西駅前の「ミール」で歌声広場を6期の同志と立ち上げました。ボランティアではありませんが、此処で色々な方にお集りいただき人脈を作り上げることができたそうです。

また、「巡の家」は、小岩で6期イレブン（11名の同志）を中心に外国人の溜まり場として展開していますが、場所、交通の便等の問題か、人集めに苦戦をしているとのこと。

更に、得意の音楽を武器に、施設の慰問活動として、「巡の家」の関係から"熟年ふれあいセンター（小岩教育プラザ）"においてメンバー4名を擁し歌声広場の出前を行っています。



◆大島さんは熱く語ります

活動は中心になる人と、サポートする人が心を一つにして楽しく続けて行かなければ困難を乗り越えることはできない。目標は、「外国人との友好の場」を作りあげることです。

フィールドワークで見学した新宿区の多文化共生センター、国分寺や浦和の充実した施設を参考にして、江戸川区行政に働き掛けていきますと、力強くお話しされました。

◆人大ボラ連への思いを語る

江戸川総合人生大学ボランティア連絡会（人大ボラ連）は、本年4月27日の発足会議を持って立ち上がり、その後同窓会の活動を通してグループ同士のコミュニケーションを図ってきました。10月1日に第二回会議を開催し、今後の活動方針について会員グループの皆さんと話し合い、よりよいボランティア活動を目指していきます。

取材：矢島芳男（国際7期）／寺本孝行（国際7期）

同窓会の窓

9月11日に同窓会会員対象のイベント「大人の社会見学」のバスツアーが催され、97名の参加者が陸上自衛隊木更津駐屯地と新日鉄君津製鉄所を見学してきました。昨年の東日本大震災に活躍したヘリコプターや日本の発展を支えてきた環境に優しい鉄鋼設備を目の当たりに見ることができて、さらに同窓生の親睦と絆を深めることができました。

10月末の同窓会総会で新たな仲間を迎え、新しい体制での活動は前期と同じように卒業生のための魅力ある同窓会を目指します。卒業生を中心としたボランティアグループの課題や抱えている問題を一緒に解決し、地域コミュニティへの貢献も重要なテーマです。在校生の皆さんと交流の機会を増やし、一般の区民の方々にも見える形で活動し、江戸川総合人生大学の存在感アップに寄与したいと思っております。より一層のご支援ご協力をお願いいたします。

同窓会会長　国際4期　川瀬 隆弘

えどがわエコセンターより　えどがわエコセンターが参加するイベント盛りだくさん！

特定非営利活動法人えどがわエコセンターは、一人ひとりが環境について学び、行動するために立ち上げたNPO法人です。区民・事業者・行政や教育機関など、区内のさまざまなセクターが参加して自然環境からごみ問題、地球温暖化防止等あらゆる環境課題に取り組み「日本一のエコタウン」の実現を目指します。

	日程	時間	イベント名	会場	内容
1	11月4日（日） 10日（土） 11日（日）	10時～ 夕方 9時～	北小岩まつり 一之江駅西口秋まつり 東部地域祭	小岩公園　他 一之江駅 東部区民館及びその周辺	各商店街・地域の顔さんとエコな取組宣言や 会員募集のご案内を行います。
2	11月24日（土） 25日（日）	10時～17時 10時～16時	第10回「江戸川区水辺の活動交流会」	タワーホール船堀1階 展示ホール	水辺を舞台に環境活動などを行っている長と、団体が、日頃の 成果を展示・発表し交流を図ればとしたイベント形式です。

※詳細・お問い合わせは　特定非営利活動法人えどがわエコセンター　電話:5659-1651　FAX:5659-1677　メール:edogawa-ecocenter@bz01.plala.or.jp

編集後記

2年間の人生大学の学びも卒業式も無事終了しました。編集委員に携わったことで今年は学科を超えた仲間と絆を深めることができたこと、その結束を固めながらの編集作業は私にとって授業より楽しく、いい体験といい思い出ができたように思います。7期生並びに8期生の編集委員の皆さん、いろいろとありがとうございました。なかには大変な思いをしたと思われている方もいるかもしれませんが、物を創り上げることの体験と責任は今後何かに役立つと思います。次号からは8期生が中心となるわけですが、より確かな結束力のもとで企画・編集を楽しみながら、チャレンジ精神を忘れず、魅力ある情報紙づくりを期待しております。

編集長　井上　眞（まち7期）

全員が協力し合い、より良い情報紙になることを願っています。

副編集長　矢島　芳男（国際7期）

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

【7期生】井上眞、齋藤彰吾（まち）寺本孝行、矢島芳男（国）小田口清美、鹿野恵子（子）永田光恵、武藤孝（介）

【8期生】伊藤記子、鳥羽山晟（まち）寺田佳子、土井芳夫（国）佐久間鐵雄（子）石井房江、八武崎美子（介）

●編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで　電話：03-3676-9075／FAX:03-3676-6545

第7回 江戸川総合人生大学祭 ワクワクREPORT 2

各クラス趣向をこらした展示風景（まち7期）

各クラス趣向をこらした展示風景（国際8期）

防災コーナーは手作り人形で分りやすく説明

ドキドキ広場

●介護8期の車いす体験！

安全な乗せ方や段差のある道路の通行などを体験。高齢化社会の今日、タイムリーな企画でお年寄りも多数来場し、熱心に体験、見学をしていました。

●紙芝居「きれい江戸川」、「葛西城物語」

「きれい江戸川」は、おじいさんと孫の掛け合い問答で環境保全・美しい自然を紙芝居でアピールするもので、熱心に見入っている親子づれが印象的でした。

「葛西城物語」は、歴史紙芝居で、鎌倉・室町時代の葛西に実在した城をテーマにしたもので、北野学長も最前列で熱心に鑑賞されていました。

わくわく体験コーナー

●介護8期 身近なものを利用して

新聞のチラシを利用したちょうちょ、アクリル系の毛糸で編んだタワシ、端切れ布を利用したお手玉など思いもよらないきれいさ、なつかしさ、便利さなどがお子さん、お母さん、ご家族連れに好評でした。

●子ども7期のエコ工作

牛乳パックを使った楽しいエコ工作に、テーブルを囲んだお母さんと子どもたちが熱心に汗を流していました。

●まち7期「ジャイロヒコーキ」

紙で輪を作りテープで留めるだけの誰にでも簡単に作れるヒコーキです。多くのチビッ子が挑戦し、歓声があがっていました。

●まち8期のけん玉体験、輪投げ体験

子どもだけでなく大人も子どもの頃にかえり挑戦していました。

展示ホール

●各学科の学びの成果を展示

介護8期は、授業で紹介された各施設の訪問記録が展示されていました。まち7期は、今年の授業内容をムービーシアターで紹介。まち8期は、区民農園、小松川と葛西地区の歴史、各世代のサードプレイスが展示されていました。子ども8期は、「子ども未来館」の紹介や相撲「中村部屋」の一日が展示されていました。国際8期は、大学での活動内容や外国の早口ことばの紹介。国際7期は、外国人への日本語学習サポートの紹介。介護7期は、介護保険の仕組みと解説、脳年齢の判定法やハンドトリートメントの実演が行われました。

●防災コーナー 迫りくる大地震に備えて

防災服にヘルメット、マスク、安全靴に身を固め、子どもをおんぶし、赤ちゃんをだっこしたお母さんの人形が出迎えました。現在、東京湾北部直下型地震の発生が報道されていることもあり、たいへん注目されたコーナーでした。

卒業生も大活躍

●おやすみ処 よってこ

卒業生グループの活動をポスターで紹介するとともに、日本舞踊やダンス、南京玉すだれの実演が行われました。

喫茶コーナーは来場者の休憩所としてにぎわっていました。

●同窓会広場

地域で活躍している卒業生31団体の活動をポスターで紹介。うきた芙蓉の会の手作り作品の実技指導や介護6期生有志による脳トレ体操が行われました。

（取材：まち7期齋藤）

■ポスターが採用されて

山元維津子さん（子ども8期）は「趣味は絵を描くことです。今回のポスターの基本は子どもと自然です」と言います。☆透明水彩で描かれた今回のポスターをみて、思わず微笑んでしまう方もおられるだろう。

（取材：介護7期永田）

■大学祭実行委員会より

今年は昨年の来場者数960名に対し、目標を1200名として広報活動に力を入れました。しかし来場者数は765名でした。様々な原因があると思いますが出来るだけのことをした結果なので真摯に受け止めたい。一緒に活動して戴いた部会の皆さんには大変感謝しております。

第7回大学祭実行委員会広報部会長
森田賢一（介護7期）

身近なもので手作りコーナー（介護8期）

行列のできるハンド・トリートメント（介護7期）

ジャイロヒコーキを作って飛ばそう（まち7期）

牛乳パックのサンバイザーが子ども達に大人気（子ども7期）

Class round-table talk of 8-term student

[8期生クラス座談会] 1年次の授業を修了して、みんなの本音を伺いました！

各クラス毎に1年次の授業について意見交換、また2年次の不安や期待を語り合いました。

江戸川まちづくり学科　8期

広範囲な見学から学んだ まちづくり

取材：鳥羽山 晟・伊藤 記子（まち8期）

「まちづくり学科」も最終日を迎え、午後の「食事会」を利用して各人に自由に語っていただきました。

「まちづくり学科」は、前半は「種さがし」からのスタートで、初めは簡単に考えていましたが、広範囲に見学を行なう中で、思った以上に知らないことが多く、一つずつ学び進んだことは大変良かったと思います。

また、地域で活躍している方々との意見交換は非常に新鮮でした。

後半は「実践」でしたが、「手づくりえどがわ講座」では、目標を決めた後の共同・創造のプロセスが大変でした。

話し合いの場で人の意見をしっかり聞きながら、自分もはっきりと意見を伝えていくこと、相手の意見を尊重することによって、一人ではできないことが出来るようになることをカウンセリングで学びました。特に苦手なことにも参加させていただいた後の達成感はとてもよい思い出になりました。

それから、クラスにおいては個性豊かな方々に出会えたことも自分たちにとって大きな発見に繋がったと感じます。

今後のことは、まだはっきりと決めていないところもありますが、ボランティアの聴き役などやスポーツではイベントなどに参加できたらと考えています。

2年次から始まる40時間の社会活動体験も気がかりなところですが、できれば夏休み前に2年次の授業の簡単な説明をして頂けたらと思いました。みなさん、2年次への期待もありますが、不安もあるとの意見も多かったです。

一年を終了し、皆さんとても明るく相互に理解力も出てきて、まとまりのあるクラスに成長したように思います。いろいろな意見も出て、お食事会も和やかな雰囲気で終わりました。

6月22日（金）授業終了後「食事会」にて

国際コミュニティ学科　8期

幅広く学んだ1年間 苦労しながらも結果は満足？研究発表

取材：矢島 芳男（国際7期）、寺田 佳子・土井 芳夫（国際8期）

まず本科の授業は、各国の文化や、外国人との共生の問題点などを幅広く学び、とても有意義でした。特に骨格、石器等の道具、伝承の比較などによる日本人のルーツの推測は非常に興味深い内容でした。DNA分析によると韓国、中国に比べ日本人は純血度が低いことを知り「日本人は単一民族」という認識が強かったので驚きでした。

後半のフィールドワークと研究発表では、ネバールでの専門家の実践経験を2回にわたり受講し、我々はどこまでやれば良いのだろうと不安になりました。全員悩みながらも何とかまとめましたが、ごく身近な物も含め多岐にわたるテーマでそれぞれ立派な発表を終えることができ、ほっとしたところです。もう少しヒントを与えて頂ければこんなに悩まなくて済んだのにと思うのは甘えでしょうか。

共通基礎科目も、個人では行けない施設の見学を含めた屋外活動の多かった地球環境を考える身近な活動や、カウンセリングの基礎の講義は非常に有意義でした。えどがわ入門もプレゼンテーションに工夫があり江戸川区の理解に役立ちました。

総じて興味深い講義が多く満足でしたが、一部には不満な講義もありました。アンケート調査を反映し少しずつでも改善して頂ければと思います。

もうひとつの大きな目的の「友達を作る」は本科の授業が午前中という幸運にもめぐまれ授業後の活発な交流も活かし年齢・性別を超えた幅広いお付き合いができました。

10月から2年次が始まりますがグループ研究発表、40時間の社会活動体験とも具体的イメージを掴めず不安が一杯の状態です。より具体的なオリエンテーションをしてもらえたらと思います。クラスのまとまりも強くなっていますので、力を合わせ明るく楽しく8期生らしい2年次を迎えようと皆で誓って座談会を終えました。

7月3日（火）授業終了後活動室にて

子ども・子育て応援学科　8期

ウキウキ、ワクワク 楽しく、みんなで子育て応援

取材：寺本 孝行（国際7期）、佐久間 鐵雄・嘉無木 和江（子ども8期）

クラス全員参加の座談会となり、授業やフィールドワーク等について、活発な話し合いが行われました。

授業の内容としては子どもの成長を学び、子どもの活動を見守る、子育て中のお母さんの様々な問題や不安を少しでも和らげ応援することが理念ですが、実際はウキウキ、ワクワクして、授業を受けました。初めからボランティアに熱い思いを持って入学した人や、当初他学科を希望していたがオープンキャンパスで三輪先生の講義を聞き学科を変更した人、孫の育児を手伝う目的で入学し、今後役に立てたいと思う人、子どもが小学生なので今の子育てに役立てたいと入学したが少し違うと感じている人等、クラスの人達の思いは様々のようでした。

授業では相撲部屋を見学して、若者達の厳しい稽古や躾の中での成長を見せてもらったり、他区の充実した施設を見学し区内だけでなく視野が広がり良かったという意見がありました。施設との見学の予約交渉や参加者をまとめたりすることは大変でしたが、それも勉強のひとつとして、2年次には工夫が必要という課題が残りました。

クラスの人の年齢も米寿の人から小学校の子育て中のママさんと多彩ですが、研究発表や施設見学、大学祭の準備等では和気あいあいと話し合い、考えながらお互い都合をつけ合って一年を過ごしてきました。

いよいよ2年次が始まります。今まで勉強してきたことの成果を発揮することになるわけですが、各々の研究発表をどう具体化していくかは全くの未知数です。クラス全員で助け合い協力し、楽しみながら2年次を過ごしていくことを願っています。

7月3日（火）授業終了後講義室にて

介護・福祉学科　8期

豊かな人生を 互いに思いやる気持ちを持って

取材：武藤 孝・永田 光恵（介護7期）、石井 房江・八武崎 美子（介護8期）

豊な人生実現への思い、或いは身近な人の状況から現実を知り、知人をつくり高みを学び、さらにはその学びを社会に反映していきたいとの熱い思いで入学されてから、もう1年次が終了という時節を迎えました。

クラスの皆さんにこれまでの感想、これからへの思いを語ってもらいました。まず、本科の授業を受けた感想は、学科長村田先生の細やかな心配り、社会的に立派な活動をされている講師の先生方の充実した授業内容に大満足でした。また、事務局職員の皆さんの優しい接し方、さらに学校の立地の良さ等々。気持ち良く、楽しみに集まって和が生まれ情報交換を通しながら仲間づくりができました。

急速に高齢化が進む社会環境、住民周辺の様子に一人ひとりが真剣に取り組まなければならないという意識が強くなりました。

実習の「車イス」体験はすぐに役立ち良かったと喜ばれています。

先輩方の活動状況発表は多方面熱心な取り組みの素晴らしさに感動と同時に、これから始まる私達の2年次が不安になりました。

特養施設の見学で、何年も何百人も入所を待たねばならない現実の厳しさも知りました。また、老人医療費等を考えた時「延命治療不必要宣言」をしたい等、学習効果は決意に表れていました。尚、私たちのクラスメートには障がいのある3名の方が在籍しています。座談会には出席しなかったのですが感想文をいただきました。互いに思いやる気持ちを持って、これからも共に学習し「障がい者にも高齢者にも、大人にも子どもにも、そして男性にも女性にも生活しやすい環境を作り上げていく」という目標に向かって活動していけるクラスだと思いました。

7月3日（火）篠崎文化プラザ内アルティザンにて